



福井駅など北陸新幹線の県内沿線を表示した巨大ジオラマ=18日、福井市観光交流センター(中野克規撮影)

3.16 開業 北陸新幹線

沿線ジオラマ大迫力 福井市観光交流センター 来月8日まで

北陸新幹線の県内開業まで150日となった18日、福井市の新幹線福井駅に隣接する市観光交流センターに、福井駅や敦賀駅など県内沿線を表示した巨大ジオラマが公開された。11月8日まで展示する。おもむきの新幹線車両が走る様子に、来場した子どもたちは「カッコイイ」と大はしゃぎ。来年3月16日の新幹線開業に期待を膨らませた。

同センターの指定管理者「まちづくり福井」が企画した。ジオラマは県が大手玩具メーカーのタカトミと連携して製作。東京駅で9月30日、10月9日に開催したイベントで公開した

福井市郷土歴博 きょうから特別展

県都変遷 色鮮やか写真

県庁移転、戦震災復興…岐路の100点

明治から大正、昭和へと開発に伴い変遷を繰り返した県都福井市の景観をA1(人工知能)でカラー化した古写真でひもとく同市立郷土歴史博物館の特別展「T日E 福井駅前」(福井新聞社共催)が19日開幕する。18日に内覧会があり、色彩を備えリアリティーを増した写真の数々が一足先に披露された。

(伊藤直樹)



A1でカラー化された明治から昭和初期の古写真に見入る内覧会の参加者=18日、福井市立郷土歴史博物館(杉本哲夫撮影)

同館をはじめ県内の博物館や図書館所蔵の写真と地図約100点を展示。福井城跡地への県庁移転100年と来年3月の北陸新幹線県内開業にあたり、都市開発における四つのターニングポイントを振り返る。

1896(明治29)年の北陸線敷設。福井開通と福井停車場(福井駅)の開業が最初の節目。開業間もない駅舎や足羽川鉄橋を渡る満員の汽車の写りが往時をしのばせる。駅舎の目の前に広がる百間堀や、試験場(農業試験場)として活用された福井城跡の写写真も並ぶ。

二つ目の分岐点は、佐佐木上町(現在の西武福井店付近)にあった県庁が老朽化に伴い1923(大正12)年、福井城跡地に移転した出来事。移転前の瓦葺きの庁舎と、国会議事堂を思わせる移転後の荘厳な庁舎の写りが来場者の関心を集める。旧県庁跡地に28(昭和3)年、県内初の百貨店「だるま屋」が誕生したが三つ目のターニングポイント。だるま屋、福屋の両百貨店が写る駅前通りの写真がにぎわいを伝える。埋め立て工事中の百間堀の写写真もあり、商業地化が城下町の面影を失う契機になったことを示す。

四つ目の岐路が45(同20)年の福井空襲と48(同23)年の福井地震。隼士からよみがえった県都を走る路面電車の写りが復興を印象付けている。

藤川明宏学芸員は「城下町の景観維持と近代都市化を求める声がかせみき合うと判断した選択の上に現在の街がある。歴史に学び、今後のまちづくりにつなげたい」と話していた。

12月3日まで。毎日午前11時からギャラリー1、10月29日午前10時から見どころ講座がある。

小中の不登校過去最多 29万9千人、文科省調査

ニュース あれこれ

文部科学省は、2022年度の問題行動・不登校調査の結果を公表しました。全国の国公立小中学校で30日以上欠席した不登校の子どもは10年連続で増え、29万9048人と過去最多を更新。文科省は「必ずしも学校に行く必要はない」との認識が広まったことなどが要因」とみえています。

国や自治体も対策を急ぎ、仮想空間「メタバース」上の学校で、自分の分身「アバター」を通して授業を受けるといった、子どもたちの状況に応じた取り組みを行う地域もあります。

新幹線県内延伸へ そば魅力発信誓う

あわらで全国種類大会

全国のそば店など種類業者が集まる第89回全国種類大会が18日、あわら市のグランディア芳泉で開かれ、そばなどの魅力発信や後継者育成に取り組むことを誓った。

一般社団法人日本種類業団体連合会と全国種類生活衛生同業組合連合会が主催した。県内での開催は25年ぶり。327人が参加した。

福井県種類生活衛生同業組合の山本一理事長は「大会を通じて、来年3月の北陸新幹線県内延伸に合わせ、福井の特産であるそばを全国に発信していきたい」と強調。「香

福井の水防災考えよう

地域課題テーマに講演会

ある人や高齢者の個別避難計画作成の重要性、シエンターに配慮した被災者支援の在り方などを話す。

午前11時15分開場。受講無料。希望者を25日まで専用フォームで参加募集。

29日日本社参加募る

オームQRコードで受け付ける。問い合わせは、防災コンテスト事務局(福井新聞社内) ☎0776-76(57)5 152(平日午前9時午後5時)。(西脇和宏)

DIY 中学生タイムズ

第56回県球算選手権大会(福井新聞社後援)が15日、福井市の県球算会館で開かれた。小学生から一般までの90人が参加。中学と高校一般の両部門全体の個人最高得点者「そらぼん福井県一」には、瀬戸瑞恵さん(福井市)ら48人が表彰状や感謝状を贈られた。(西岡末樹)

県球算会館

インフルエンサー情報

県内外のインフルエンサーに聞いた! / 新聞広告の魅力って?

明日、10月20日は一般社団法人日本新聞協会により、1958年に制定された「新聞広告の日」です。日ごろの広告出稿に感謝し、新たな新聞広告の活用法や価値を伝える日です。今年にはTikTokと運動させた新たな取り組みに挑戦します。この取り組みに協力して下さったインフルエンサーのお二人に、新聞広告の魅力について聞いてみました。

三吉氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

押川氏:僕が自然と人の温かさを伝えるのが好きというところがある地方が好きなところがある。新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

三吉氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

押川氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

新聞広告の魅力って?

明日、10月20日は一般社団法人日本新聞協会により、1958年に制定された「新聞広告の日」です。日ごろの広告出稿に感謝し、新たな新聞広告の活用法や価値を伝える日です。今年にはTikTokと運動させた新たな取り組みに挑戦します。この取り組みに協力して下さったインフルエンサーのお二人に、新聞広告の魅力について聞いてみました。

三吉氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

押川氏:僕が自然と人の温かさを伝えるのが好きというところがある地方が好きなところがある。新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

三吉氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。

押川氏:僕もです。新聞という古くからあり、だからこそ安心感があるメディアの広告と、比較的新しいSNSというメディアの広告が融合するこの取り組みに新しい可能性を感じました。